

(別紙4) (西暦) 2022 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871800199		
法人名	有限会社サンミルクサービス		
事業所名	グループホームバンヤンツリー岩井		
所在地	茨城県坂東市岩井5200-29		
自己評価作成日	2022年9月5日	評価結果市町村受理日	2023年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/087/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosvoCd=0871800199-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2		
訪問調査日	2022年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>*コロナ禍が続いているため、今まで当たり前でできていた、外食や、外出ができなくなりましたが、屋内でも楽しんでもらおうと、スイカ割りや出前、利用者様からのリクエストに応じてカップラーメンを食べる日を作ってみたり、おやつを手作りしてみたり、屋内でも気分転換が図れるよう努めています。外出は感染者数が落ち着いている時季を見計らってドライブや公園に行ったりしています。 *面会が出来ない分、家族様へはこまめに連絡し状況をお伝えする様努力しています。 *コロナ禍になってから、職員の休憩室も一人一部屋にし、感染対策を徹底しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ感染予防の為、今迄通りの外食・外出支援を自粛しているが、事業所内のイベントを充実させて、楽しみのある日常になるよう心がけている。最近では混み合う時間をさけて、下肢筋力強化に向けた散歩やドライブ、コスモス畑に出かけている。ハワイアンを感じさせる明るい洋風建築の事業所には利用者の笑顔があふれていた。職員は利用者毎にオーダーメイドの介護の提供と家族のように接することで、良好な信頼関係を築いている。コロナ感染対策マニュアル・必要物品・カウンテクニック・ゾーニング・シミュレーションを実施している。月1度の出前を頼んでの食事は利用者自身が食べたい物を選び、楽しみの一つとなっている。*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月カンファレンス・ミーティングの場にて話し合い、理念を共有できるよう心掛けている。	法人と事業所の理念を玄関ホールに掲示し意識付けを図っている。カンファレンスやミーティングで確認し『オーダーメイドの介護』の提供に努めている。理念の他に年間目標を決めて取り組んでいる。一人一人に合わせた家庭的で笑顔のあふれる介護の提供に努めていると職員へのヒアリングで聞くことができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で一緒に買い物や外食に行けていないが、散歩や蜜を避けての公園へ出かけたりしている。	コロナ禍で地域交流は困難であるが、時間や場所を考慮して散歩に出かけている。地域住民から福祉・介護に関する相談があり、アドバイスをしたり、関係機関に繋げている。以前は夏祭り・菊祭り・農大祭り・歩行者天国・イルミネーション等の地域のイベントに出かけていたが中止となっており、事業所内のイベントに趣向を凝らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で施設からの発信はないが、問い合わせがあった際には、適切なアドバイスをするよう努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催。コロナの感染状況をみながら対面か文書での開催を実施。市や近隣の方からの意見があれば実践している。	薬剤師・ボランティア・社長・ケアマネの知人・家族代表・利用者代表(順番性)・行政・事業所担当者の構成メンバーで2ヶ月毎に開催し、状況を見て書面報告に変更している。主な議題は行事の振り返りやホーム状況である。書面報告の場合は事前に意見を聞いているがこれまで特に意見は無い。職員には会議で報告し共有。家族へは議事録の送付を検討中。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と連携をとり利用者の報告をしている。	担当課(社会福祉課・介護福祉課・地域包括支援センター・社協)と連携をとり、良好な関係を築いている。『ほっと通信』を他事業所や行政に発信し、事業所の状況やサービス内容を伝えている。子ども110番は検討中。地域密着型連絡協議会・ケアマネ会・中学生の体験学習は自粛中。坂東市の介護保険事業者団体連合会の施設部会に加入している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ委員会にて定期的話し合いを行い、ミーティング時に全スタッフと話し合い、身体拘束が無い様理解を深める努力をしている。	身体拘束ゼロ委員会を設置し、3ヶ月毎に話し合いをする。研修は年2回実施している。門扉の施錠をしているが、利用者の安全上の為であり、家族の承諾を得ている。やむを得ず一時的に拘束となる場合の書類は整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に虐待についての話し合いの場を設け理解を深め虐待が無いようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会があまりない為、今後のために学ぶことは必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に十分に話し合いをし、納得していただいてから契約するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為、家族会は開催できておらず直接顔を合わせての意見を聞くことの機会が減っているが、面会ができる時には話を伺ったり、また電話で聞くよう努力している。	毎月、写真入りで利用者の状態を知らせている。コロナ禍の為、面会には制限を設けて窓越しとしており、電話連絡時に話を聞くようにしている。意見箱の設置・第3者機関名を明示している。コロナに対する心配な声はあるが、特に意見は無い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個別の面談等を行いスタッフの意見を聞き、運営に反映させるよう努めている。	職員採用や利用開始になる利用者の報告は事前に行っている。毎月のミーティング前に議題を職員に知らせ、有意義な会議の進行に努めている。年1回のキャリアパスで評価し、職員の職業意識向上に繋げている。資格取得に向けた支援をしている。夜勤帯はサブとして1名増員の勤務体制となっており、職員の不安軽減になっている。施設長・管理者・職員間の関係は良好で意見は言いやすく、すぐに検討してもらえるので、ストレスや不満はないとの事。外部評価は自分たちのケアを振り返る機会と捉え、項目ごとに職員が評価した内容を施設長がまとめた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年一回キャリアパスを行い評価に応じた昇給を行っている。また、個別に面談等を行い、個人の家庭状況等を把握し働きやすいシフト調整等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、研修自体が減ってきているが、資格取得に向けて研修に行ける様勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	坂東市の介護保険事業者団体連合会へ加入。以前は勉強会や会合があったがコロナ禍で実施できていないため交流ができていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前と入所時、本人の話を傾聴し、本人が不安にならないよう支える努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前と契約時の中で、ご家族様の心配事、要望等を伺い、いつでも相談できるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の様子を見ながら今必要なことをスタッフ皆でカンファレンスの中で話し合い、より良いサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器の片付けや清掃、洗濯物たたみなど利用者様に手伝ってもらいながら一緒に行動を共にし生活を送っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に関してはコロナの状況に応じて対応しているが、通院等協力をいただけるご家族様には利用者様と一緒に通院していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ前は家族や友達がホームに遊びにきてくれることもあったがコロナ禍で外出や面会ができなくなり関係継続が困難になっている。電話での支援は行っている。	電話や手紙、はがきで友人や家族と連絡を取り合い、大切な馴染みの人との関係継続に努めている。利用者と職員が馴染みの関係となりつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士トラブルが起きない様、職員が間に入り、お互い楽しく生活が送れるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も利用者様の様子を伺ったりして、その後の相談等をすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中で声をかけ、言動や表情などから真意を推察したりして支援している。	日々の会話から利用者の思いや暮らし方の把握に努め、全職員で共有している。趣味の継続や家事をやりがいに繋げている。思いの把握が困難な場合には、選択できるような問いかけ等、工夫をして表情や様子から利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実調にてご本人様やご家族様、利用しているサービス事業所よりこれまでの生活について伺い把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に利用者様からの発言や、いつもと違う様子に気付いた際にはしっかりと記入するよう周知し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でカンファレンスの中で必要なサービス・支援を話し合い介護計画を作成している。利用者様との普段の会話からも要望を察し計画に役立てる様にしている。	利用者や家族からの要望をもとにカンファレンスを開催し、必要なサービス・支援を話し合ってプランを作成している。作成後は家族に郵送し同意を得ている。前回の評価を受け、ケアプランをケース記録に添付して目標達成に向けたケアの提供を記録するよう変更した。週間サービス計画表で一日の流れが分かるようになっている。サービス担当者会議でモニタリングを実施し、現状に即した再プランに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの実施・出来たか出来ないかをしっかり書くよう努めている。 薬の変更時には様子の変化を見落とさないよう詳細に記入するよう周知し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急を要するニーズが生まれた場合には、管理者やご家族様と相談し利用者様にとって最善となるように柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源を活用できていないが、散歩へ出かけ近隣の中学生と挨拶を交わし、部活動の様子を拝見したりして心豊かに暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に当施設の往診利用か、本人様のかかりつけ医への通院かを確認し利用している。かかりつけ医への通院を希望される場合にはご家族様に通院の協力を依頼している。	協力医療機関による月1回の往診で利用者の体調管理に努めている。薬の処方箋は家族にコピーを送付している。変化があった時は家族に連絡して記録に残している。かかりつけ医受診は家族付き添いが基本であるが、職員が同行するときもある。受診結果、付き添い担当者・検査内容・指示をを受診記録簿に残していることが確認できた。職員伝達用連絡帳にも記入し全職員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との契約は無いが、不明な事などがあった際には往診対応の看護師へ連絡し相談や指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に病院の相談員と連絡を取り合い現状把握と今後の相談ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族様の要望を伺いながら、当施設で出来ることを話し、納得していただきながら支援している。 また、状態が変わっていく過程で改めて家族様と話し合い擦り合わせながら支援している。	契約時に看取りに向けた医療行為は出来ないことを伝え、同意を得ている。状況が変化する過程で医師と職員が話し合い、施設長と家族で話し合った上で、次の施設に移動となる。夜間緊急時は協力医に連絡、もしくは救急搬送することになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	数年に一度。救命講習を消防署の協力を得て受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、避難訓練を行っている。水害の災害時を想定し福祉避難所へ行ったりもした。 地域との協力体制は整っていない。	年2回の避難訓練を実施し、利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につけている。地域との合同訓練は検討中。水害危険区域と指定されており、ハザードマップを把握している。警報が出る前に避難を完了させる為、実際に福祉避難場所まで行ってみた。災害別マニュアルを作成している。備蓄品・緊急持ち出し用品を備え、個人別の持ち出し用品はリュックに詰めてある。家族に事業所の携帯電話番号も知らせている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年上の方ということを忘れずに言葉遣いに気を付けながら対応している。プライバシーにも配慮し、声のトーン等気を付けている。	親しき中にも礼儀ありというように、利用者を人生の先輩として敬い、ケア提供時や声掛けにも配慮している。言葉を交わすときは視線を合わせ落ち着いたトーンで対応している。情報開示に向けた同意書を取り交わし、個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言動のなかでご本人様が決定できる様、声掛けの工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや想いに沿い、一日一日をその人らしく過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度、訪問美容師を活用している。その時の天候やご本人様の好みに合わせた服装にも気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度出前を利用し、ご本人様が選んだメニューの物を召し上がっていただいている。また、個人個人出来ることを手伝っていただき、食器の片付けを職員と一緒にやっている。	食材配達業者からの食材と献立で提供している。アレルギーのある方には代替食を提供。月1回は出前やテイクアウトを利用し、利用者が食べたい物を選んでいる。利用者の状態に合わせた食事形態で提供。下ごしらえ・下膳・食器拭き・お絞りたたみ等を手伝う利用者もいる。食事中は食べることに専念できるようテレビはつけずに音楽を流し黙食。食事が楽しみとなっている様子が利用者の食欲から窺えた。おやつ作りは利用者の楽しみとなっている。食後の口腔ケアを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態や量で提供している。水分量等もチェックし不足している時には声掛けをしたりして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別に声掛けを行い歯磨きを行っている。介助や見守りが必要な方には職員がついて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、一人一人の排泄のパターンを把握し声掛け誘導を行い対応している。	昼間はトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行い、2人介助の利用者もおむつは使用していない。夜間は利用者の要望に沿った支援を実施している。ポータブルトイレを使用する方にはセンサーを使用し、対応している。声掛け誘導と利用者のやる気から失敗回数が減少、改善した方がいる。体操・牛乳・水分・散歩等で自然なお通じになるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状況の把握と共に、朝には牛乳を飲んだり、日中には体操をしたりして自然排便を促せるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様が平等に入浴ができるよう、入浴日と時間帯だけ決めて、ご本人様のタイミングに合わせて入浴支援をしている。	窓から南国風景の眺められる浴室で、利用者が気持ちよく入浴しているとのこと。週3回の入浴であるが、希望があればそれ以外の入浴も可能。ゆず湯・しょうぶ湯・入浴剤を提供している。感染予防の為、足ふきマットの個別化し、ヒートショック対策も実施されている。着替えは職員と一緒に準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や希望に応じて休息していただけるよう支援している。 季節に応じた寝具類にも気を使っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人薬の説明書はファイリングしており、職員全員が閲覧できるようになっている。 日々の様子等観察し、症状の変化に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出等はコロナ禍のため難しいが、日々の中でお手伝いを一緒にしたり、トランプなどのレクリエーションも行い、気分転換を図るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、なかなか外出は難しいが天候をみて外を散歩したり、近隣の公園へ花見に行ったりしている。	コロナ禍の為、外出支援は控えている。天気が良ければ庭や近場を散歩したり、公園まで出かけている。庭でお茶を飲んだり、体操をして太陽の日差しを浴びている。先日はコスモスを見に行ったとのこと。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍のため一緒に買い物へは行けていない。必要に応じて職員が購入をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の中には携帯電話を所持し、自由に電話をする方もいらっしゃる。希望時には公衆電話を利用する方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭や玄関等に花を飾ったり、季節に応じた掲示物をして居心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関先の瓢箪の飾り物や昔ながらの赤い丸形ポストが目目を引く。ホールに季節の花を飾り、季節を感じることが出来る。利用者が作った折り紙などを飾っている。ホワイトボードに一日の予定と献立が記入されており、利用者に意識付けを行っている。加湿器を使用し乾燥防止に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外出等はコロナ禍のため難しいが、日々の中でお手伝いを一緒にしたり、トランプなどのレクリエーションも行い、気分転換を図るよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具・寝具はご本人様が使い慣れた物を使用している。	居室入口に名前を掲示している。カレンダーや時計を置き、見当識に配慮している。衣装ケースやイス、テレビ等を安全面に配慮し設置している。ぬいぐるみ・家族の写真・誕生日カード等をかざり、ホッとする居室となっている。モップかけや掃き掃除をする利用者もいるが、行き届かない部分の洗面台・居室の掃除は居室担当職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものは置かず、各居室が分かるように名札を付れたり、居室内にはカレンダーや時計を置き季節や時間を把握できるようにしている。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームバンヤンツリー岩井

目標達成計画

作成年月日 : 2023年1月11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時、近隣住民への協力体制は整っていない。福祉避難場所は決まっているが、いざ災害が起きた時は市に確認になるのでスムーズに避難できない。	避難訓練の際に、近隣住民にもお願いして一緒に参加してもらえるにする。	近所の方への参加協力依頼をしていく。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。